

県政調査計画書

令和6年2月15日

神奈川県議会議員 加藤 元弥 殿

会派名 立憲民主党・かながわクラブ神奈川県議会議員団

団長名 齊藤 たかみ

県政調査を次のとおり計画しましたので、よろしくお取り計らいください。

1 調査議員	(調査団長) <u>青山 圭一</u> (団員) <u>齊藤 たかみ 中村 武人</u> <u>栄居 学 米村 和彦</u> <u>市川 さとし 菅原 あきひと</u> <u>森田 学</u>
2 調査目的	新しい平和学習の提案に取り組んでいる事例、災害発生時における米軍との連携や住民との良好な関係を築く取組など米軍基地を抱えている自治体における基地対策の取組、米軍基地からの有機フッ素化合物の流出についての市民連絡会の活動を調査し、また、有識者と日米地位協定の改定、運用のあり方について意見交換することにより、本県における平和教育及び米軍基地対策の参考とする。
3 調査期間	令和6年3月26日～ 令和6年3月28日
4 調査地	沖縄県
5 調査項目	(1) 株式会社さびら 戦争を実際に体験された方が少なくなっていく中で、戦争体験がない若者を中心に立ち上げられた会社による、参加者が「平和とは何か」について深く思考し、過去の事例から学んだ上で、今の社会問題に向き合うための「体験学習」という平和学習を提案している取組を調査することにより、本県における平和教育の参考とする。  (2) うるま市 本県の横須賀市と同様、原子力艦が寄港する米軍基地を抱えるうるま市における災害等発生時の米軍との連



	<p>携体制、原子力軍艦の安全対策に関する取組、基地と周辺住民との良好な関係の構築に係る取組等について調査することにより、本県における基地対策の参考とする。</p> <p>(3) 有機フッ素化合物 (PFAS) 汚染から市民の生命を守る連絡会 米軍基地周辺で検出されている有機フッ素化合物について、米軍基地の周辺住民の方々による、独自に血液検査を実施する等の活動を調査することにより、本県における有機フッ素化合物の流出への対応の参考とする。</p> <p>(4) 沖縄国際大学 日米地位協定について知見の深い教授と意見交換することにより、日米地位協定の改定や運用のあり方等についてさらに理解を深め、今後の本県の基地対策の参考とする。</p>										
<p>6 経費の概算額</p>	<table border="0"> <tr> <td>一人当たりの議員経費…</td> <td>167,445円</td> </tr> <tr> <td>① 交通費 …</td> <td>126,110円</td> </tr> <tr> <td>② 宿泊費 …</td> <td>33,000円</td> </tr> <tr> <td>③ 視察料等…</td> <td>7,975円</td> </tr> <tr> <td>④ 雑費 …</td> <td>360円</td> </tr> </table>	一人当たりの議員経費…	167,445円	① 交通費 …	126,110円	② 宿泊費 …	33,000円	③ 視察料等…	7,975円	④ 雑費 …	360円
一人当たりの議員経費…	167,445円										
① 交通費 …	126,110円										
② 宿泊費 …	33,000円										
③ 視察料等…	7,975円										
④ 雑費 …	360円										

\* 日程表を添付する。

## 県政調査日程表

日	月日(曜)	調査地	現地時間	交通機関	調査箇所及び調査内容
1	3月26日 (火)		午前	航空機	移動(羽田空港⇒那覇空港)
		■沖縄県 那覇市	午後	公共交通 機関	■株式会社さびら ・平和学習について
2	3月27日 (水)	■沖縄県 うるま市	午前	車両	■うるま市役所 ・米軍基地対策について
		■沖縄県 宜野湾市	午後	車両	■嘉数高台公園 ・嘉数高台公園から普天間基地を 視察
		■沖縄県 宜野湾市	午後	車両	■有機フッ素化合物(PFAS)汚染 から市民の生命を守る連絡会 ・PFAS汚染に係る取組について
3	3月28日 (木)	■沖縄県 宜野湾市	午前	公共交通 機関	■沖縄国際大学 ・日米地位協定について
			午後	航空機	移動(那覇空港⇒羽田空港)





## 県政調査計画審査結果

県政調査計画について審査したところ、結果は次のとおりでした。

調査実施議員名	(調査団長) 青山 圭一 (団 員) 斉藤 たかみ 中村 武人 栄居 学 米村 和彦 市川 さとし 菅原 あきひと 森田 学
---------	---

## 1 要領 2 (1) の基準への適否

区 分	調査の基準	計画の内容	適否
① 調査経費	議員 1 人当たり 100 万円以内	議員 1 人当たりの経費は 167,445 円であり、基準を満たしている。	適
② 調査箇所	1 日につき午前及び午後それぞれ 1 か所以上調査実施 移動日は 1 か所以上調査実施	移動日については 1 箇所以上 それ以外の日については午前及び午後それぞれ 1 箇所以上調査を実施する行程となっている。	適

## 2 調査計画に対する審査所見

区 分	所 見
① 調査の実施が県政課題解決の一助となるか。	<p>(1) 株式会社さびら 平和教育は、過去の戦争体験から学び、平和についての意識を持つために重要であり、本県においても、県立高校等で平和教育を推進していくことが必要である。過去の戦争から時間が経過する中でどのように平和教育を進めていくかは、本県においても課題であるから、新たな平和学習の取組を調査することは、本県の平和教育の取組に資する。</p> <p>(2) うるま市役所 12 の米軍施設を抱える本県にとって、基地対策の推進は、県民が安心して暮らせる環境の確保のために重要であり、本県と同様に原子力艦が寄港するうるま市において、安全対策等の取組を調査することは、本県の基地対策の取組に資する。</p>

区 分	所 見
<p>① 調査の実施が県政課題解決の一助となるか。</p>	<p>(3) 有機フッ素化合物（PFAS）汚染から市民の生命を守る連絡会  有機フッ素化合物は、本県においても流出が確認されており、基地周辺住民の不安は非常に大きい。有機フッ素化合物の危険性について声を上げ、血液検査等を行っている取組を調査することは、本県における有機フッ素化合物の流出に対する取組に資する。</p> <p>(4) 沖縄国際大学  本県の基地対策にとって、日米地位協定の改定は大きな課題であり、日米地位協定の問題点等について意見を交換し、知見を深めることは、本県の基地対策の取組に資する。</p>
<p>② 調査の実施時期が時宜を得たものか。</p>	<p>調査対象項目は、いずれも、本県における課題として速やかに取り組むべきものであり、今回の調査を実施することは時宜を得たものであると認められる。</p>
<p>③ 現地に赴かなければ調査目的が達成できないものか。</p>	<p>本県の独自の課題、問題点等について、関係者と直接、質疑を交わすことで、より本質的な施策の目的や解決すべき課題が理解できる。  本調査においては、現地に赴き、具体的かつ詳細に調査することは有効であると認められる。</p>
<p>④ 調査箇所、行程、経費等は妥当なものか。</p>	<p>調査箇所、行程、経費等は県政調査実施要領の基準を満たしており、妥当である。</p>